児童・生徒の現状・課題

新しい問題に出会ったときに、興味をもって取り組もうとする児童が多いが、自分の考えに自信がもてずに途中で諦めてしまう児童も多く見られる。また、自分の考えを説明するスキルが身に付いていない児童が一定数おり、学びを深めていくことが難しい。

学び続ける力を育むための重点目標

自分の考えと友達の考えを比較しながら交流する場面を設定し、様々な考え方のよさに気づくことで自分の考えを深め、自信をもてるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標（5月）	結果（1月）
①自分から進んで計画を立てて学習している。	75.9	78	
②他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばすのに役立っている。	85.4	88	

教員調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標（5月）	結果（1月）
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	73.7	75	
②授業では、他の人と考えを共有したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童生徒の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。	94.7	96	

具体的な手だて①（見通す場面）

「やってみたい」と思える問題提示や解決するべき問題に気付けるような発問等、導入を工夫する。

具体的な手だて②（選択する場面）

学習道具や学習方法、学習形態を選択する場面を設定し、自分なりの考えをもてるようにする。

具体的な手だて③（見直す場面）

交流の視点を明確にして関わり合う場面を設定し、自分の考えを見直したり、深めたりできるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・研究の Classroom 内で情報を共有し、実践に生かせるようにする。

・研究推進部のメンバーを中心に学年に声をかけ、定期的に実践報告を行う。

・自己申告の授業観察の際は、「選択する場面」「交流する場面」を意識した授業を行い、教員同士で互いに見合うようにする。

総括（5月）

児童が学習に向かう気持ちはあっても、それを単元の最後まで持続させることは難しい。自ら学習しようと、意欲を引き出すためには、児童が目標や目的、学び方を自ら選択しながら学ばせることが必要ではないかと研究主任を中心に教員から声が上がった。そこで、日常の授業において児童に「選択させる場面」を設定すること、これまでに「学んだことが生かせる」ことに気付かせるなど、児童自ら「やってみよう」と一歩踏み出すために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括（1月）